

「教育と福祉の連携に関するアンケート調査」結果報告

教育部会では、岡山市内の特別支援学校小学部・中学部・高等部と、岡山市内の福祉事業所(児童発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、障害児相談支援事業所)を対象に、令和3年11月上旬～11月末までを期間とし、教育と福祉の連携に関するアンケート調査を実施いたしました。

以下のとおり、調査結果を取りまとめましたので情報提供します。

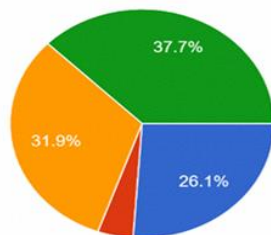
今後、教育と福祉の連携を円滑にするための基礎的な資料として、教育部会で活用を検討していく予定です。

教育部会アンケート(福祉従事者向け) 集計結果

設問①-1 あなたについて教えてください

設問① あなたについて教えてください

69 件の回答

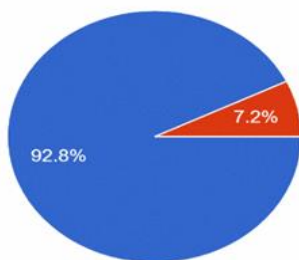


- 相談支援専門員（障害児相談支援）
- 児童発達支援センター（児童発達支援管理責任者）
- 児童発達支援事業所（児童発達支援管理責任者：センター除く）
- 放課後等デイサービス事業所（児童発達支援管理責任者）

設問②-1 他の機関から連携や協力の要請を受けたことがありますか？

設問②-1 他の機関から連携や協力の要請を受けたことがありますか？

69 件の回答

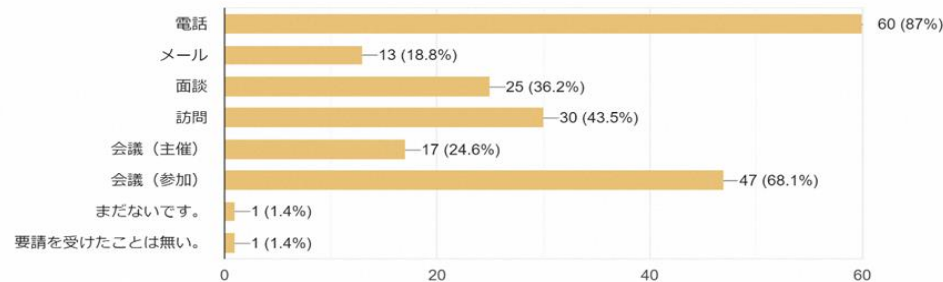


- ある
- ない

設問②-2 それはどのような方法ですか？

設問②-2 それはどのような方法ですか？（複数可）

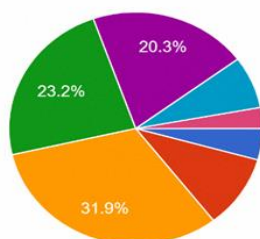
69 件の回答



設問②-3 日常業務の中で教育機関等との連携の頻度はどのくらいですか？

設問②-3 日常業務の中で教育機関等（こども園...・学校等）との連携の頻度はどのくらいですか？

69 件の回答



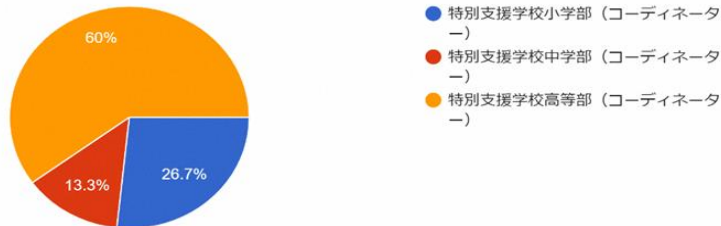
- 毎日
- 週1回以上
- 月1回以上
- 2～3か月に1回
- 6ヶ月に1回
- 1年に1回
- 他機関（教育機関等）との連携はしていない

教育部会アンケート(教員向け) 集計結果

設問①-1 あなたについて教えてください

設問① あなたについて教えてください。(校内の意見をふまえて回答してください)

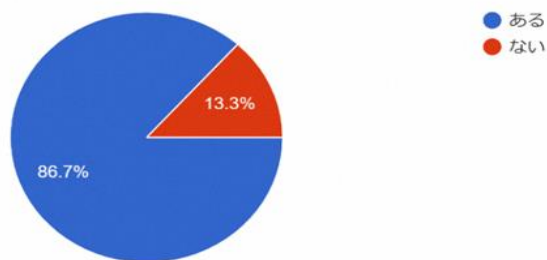
15件の回答



設問②-1 他の機関から連携や協力の要請を受けことがありますか？

設問②-1 他の機関から連携や協力の要請を受けことがありますか

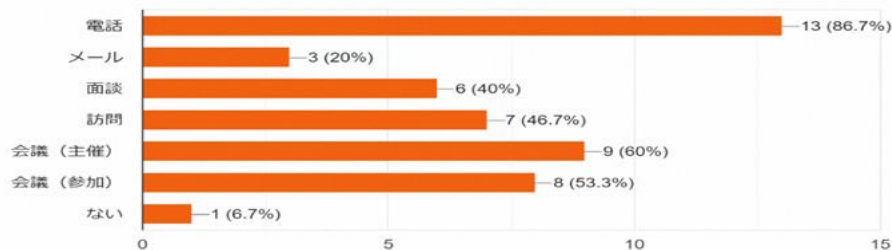
15件の回答



設問②-2 それはどのような方法ですか？

設問②-2 それはどのような連携ですか？(複数可)

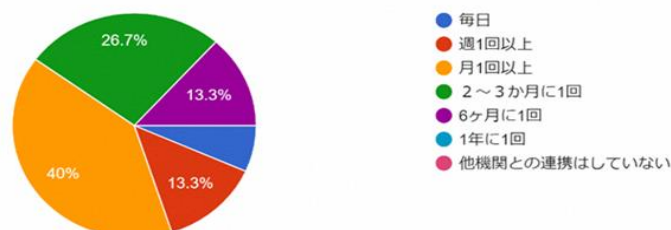
15件の回答



設問②-3 日常業務の中で障害児を支援する機関との連携の頻度はどのくらいですか？

設問②-3 日常業務の中で障害児を支援する機関...イサービス)との連携の頻度はどのくらいですか？

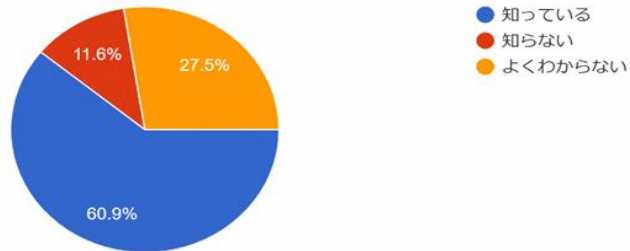
15件の回答



教育部会アンケート(福祉従事者向け)

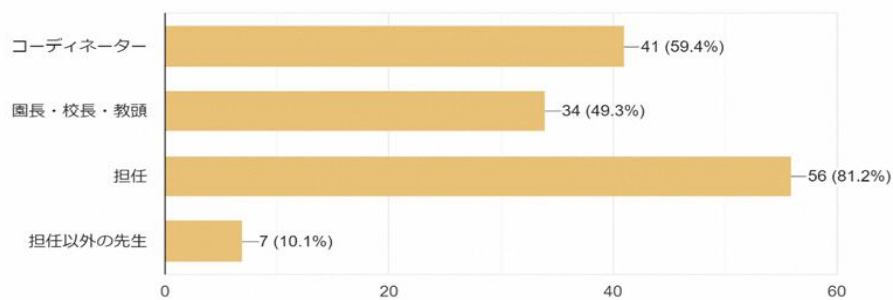
設問③-1 障害児を支援する機関と連携するときの窓口となる人を知っていますか？

設問③-1 教育機関等（こども園・保育園・幼稚...と連携するときの窓口となる人を知っていますか？
69 件の回答



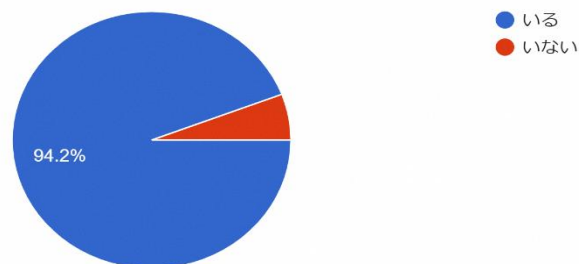
設問③-2 教育機関等と連携するときの窓口となる人は誰ですか？(複数可)

設問③-2 教育機関等（こども園・保育園・幼稚...携するときの窓口となる人は誰ですか？(複数可)
69 件の回答



設問④-1 設問④-1 教育機関と連携を必要とする対象者がいますか？

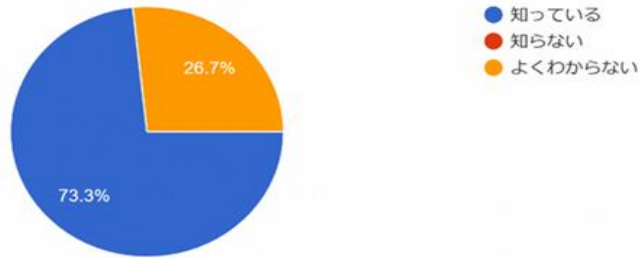
設問④-1 教育機関と連携を必要とする対象者がいますか？
69 件の回答



教育部会アンケート(教員向け)

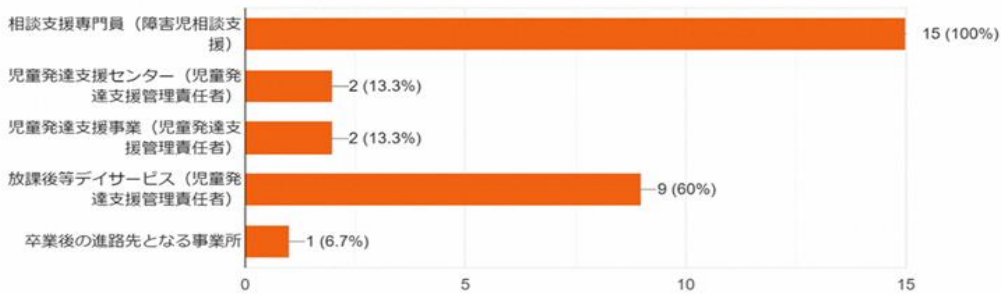
設問③-1 障害児を支援する機関と連携するときの窓口となる人を知っていますか？

設問③-1 障害児を支援する機関（相談支援事業...と連携するときの窓口となる人を知っていますか？
15件の回答



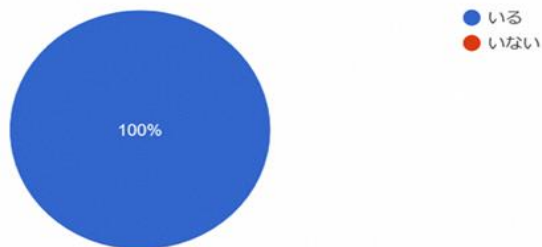
設問③-2 障害児を支援する機関と連携するときの窓口となる人は誰ですか？（複数可）

設問③-2 障害児を支援する機関（相談支援事業...と連携するときの窓口となる人は誰ですか？（複数可）
15件の回答



設問④-1 障害児を支援する機関と連携を必要とする対象者がいますか？

設問④-1 障害児を支援する機関（相談支援事業...サービス）と連携を必要とする対象者がいますか？
15件の回答



所属	設問④-2 それはどのような人ですか？ 例:行動特性上の困り感がある 等	
キーワード	①行動特性、障害特性に困り感がある ②家庭に支援が必要 ③不登校 ④集団への参加が苦手 ⑤学習の遅れがある	
支援児童 1人 発達 支援 センター	自閉スペクトラムや知的障害のある子ども 行動特性上の困り感がある。 身体的な介助、介護を必要とする お友達やスタッフにたいして手が出る等	
児童 発達 支援 事業所	行動特性上の困り感がある	就学先を迷っている
	集団指示理解、集団行動の苦手な子ども	他児とのトラブルがある子ども
	母園の先生と意見が合わない	支援学校への入学等
	集団行動に困り感がある	集団活動への参加
	重度知的障害	落ち着いて授業できていない
	全員(共通理解のため)	本人の困り感があるため
	行動特性などの困り感がある	集団内で支援が必要なお子さん
	場面の切り替え	保護者の困り感や不安感が強い方
	幼稚園での過ごし方、支援の仕方が療育と合っていない	
	一斉指示が入らず、場面の切り替えに困り感がある	
	行動特性上の困り感があり、支援方法の共有を図りたい児	
	教育機関で主体的に活動するなどの本来の力が発揮出来ていない人	
	困り感や事前に伝えておいたほうが児童にとっても教育現場にとっても都合が良いもの	
放課後等 デイサービス	問題行動が多い	
	家庭環境に問題がある子等	不登校児
	行動特性上の困り感がある	学習において、かなり遅れがみられる
	行動特性がある	他害がある、多動がある
	定例で会議をする人	学校生活に困り感が出てくると思われる
	行動特性上の困り感がある方	行動の特性があり、統一した支援が必要である
	・日常生活が落ち着かない	学習に遅れがある児童
	要保護児童	行動特性上の困り感がある
	特性上の困り感	生活リズムが不規則
	勉強についていけない	保護者にもサポートの必要がある子ども
	行動特性上の困り感がある	衝動性がある
	一貫した支援が必要	他害行為がある方
	学校が対応に困っている人、担任と保護者がうまくコミュニケーションをとれていない	
	不登校、情緒面での不安定さがある、保護者が特性を持っている。もしくは診断されている。	
	授業が正しく受ける事が困難だったり、学校と放課後デイサービスとで行動パターンに差がある等	
	日々の様子に変化が表れた子ども(元気がない。学習意欲が下がってきている。チックが出てきた等。)	
	強度行動障害の児童、実習の受け入れをする児童など	
	家族との連携が難しい。他事業所も利用している	
相談 支援 専門員	不登校	不登校
	医療的ケア児、施設入所者	不登校
	不登校	発達障害の児童
	行動特性上の困り感がある	生活リズムが不規則
	特別支援学級の生徒	行動特性がある
	特性上の困り感	支援上必要なら全ての人
	進学や卒業後についての相談が必要な人	不登校
	保護者のDV	サービスの併用
	家庭に支援が必要	
	療育手帳を取得するにあたり学校の様子を知りたい時	
	御本人が学校生活が落ち着かず本人も御両親も先行きが見いだせていない時	
	親も障害を持っていて親との連携を図りにくいケースや本人に行動障害があって関わり方の共有を図る必要があるケース	
	学校や保育園の中で先生から適切な支援が必要な子	
	診断がつかないが、園側が困り感が多いお子さん	

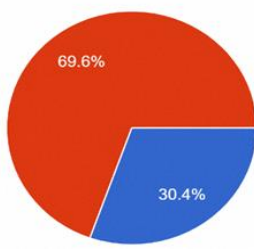
所属	設問④-2 それはどのような人ですか？
キーワード	①行動特性、障害特性に困り感がある ②家庭に支援が必要
小学部	実態や支援の共有が必要なケース、行動面での困り感があるケースなど 日常生活を送る上で困り感がある 現在と将来の生活を考えて、福祉サービスの利用の必要性があっても、保護者が積極的に動けない人。 負担の大きい保護者、適切な教育を受けられない児童生徒
中学部	医ケアや送迎などの保護者支援が必要なケース 体調管理のために、日々の情報交換が必要なケース 医ケア等で、健康安全上手厚く連携した支援が必要 保護者の希望
高等部	家庭の教育力が弱い人、現在の環境への適応の課題が大きい人、卒業後の進路が決まりにくい人 支援が必要な家庭 放課後等デイケア、相談支援事業所、地域子ども相談支援センターなど 家庭支援が必要があるケース 障害の特性上、困り感がある。 卒業後にグループホームを利用する生徒 行動特性の困り感、関係機関の支援方針の確認と情報共有、家庭支援、不登校 家庭への支援が必要。行動上の困り感がある。 本人を取り巻く家庭環境や、本人自身にも支援が必要なケース 基礎疾患がある方 卒業後就労する時に利用 保護者の養育力が低い家庭の子ども、金銭管理ができない家庭の子ども

所属	設問⑤-1 教育機関等と実際に連携してよかったことを記入してください	
キーワード	①共通理解 ②情報共有 ③方向性の一致 ④保護者理解	
支 児 タ 援 ノ セ 発 達 ン 達	お互いに連絡をとって対応の仕方を検討し良い方向に進んだとき。取り組み方を聞いて取り入れられる部分は取り入れられること等 受け入れ先の園がどのような情報を求めているか理解できた お互い知り合うことができた	
児 童 発 達 支 援 事 業 所	子どもさんの母園での様子や母園での指導方針、物理的環境等がわかり、事業所での療育の参考になった。またお子さんへの理解が深まった 園での集団での課題を個別で向き合って取り組める。園での様子を聞きながら、現状の課題に向き合える 共通理解ができる。教育機関での様子を知ることが出来る 家庭、学校、支援事業所と方向性や足並みを揃えらる事で、支援の質が向上する お互いの場所での様子やできること、今後のことなど情報共有できた 事業所と教育機関とでお子様に関わりをすることが出来る。また、お互いの場で見られる様子も違ったりするため情報共有ができる 教育機関と情報共有ができ、児童の支援で共通性を持てる お子様の多様な様子の把握や複数のアセスメントを総合して、状況の把握と療育の方向性の共有ができる。 園や学校が対象児童の特性を理解し、関わり方の変化により保護者と園や学校の関係性が改善した。 園での様子が直接観れる、簡単でも担任の話が聞けたこと 園での様子の把握、行動面での配慮についての共通理解、就学先について、親の特性理解 園での様子を聞きとり、事業所でもそれらについて支援をした結果、子どもの様子が事業所でも園でも変化を感じられた。 園での様子が把握でき、保護者の安心にも繋がる 現在の状態を共有し、支援の手だてを話せたこと 共通認識を持った上で支援するので、支援の方向性が定まり、子どもが迷うことが少なくなる。 保育園での様子を詳しく聞くことができる 課題や支援方法の共有化	
	教育機関での様子がよく分かる	教育機関での様子がよく分かる
	本児の様子を知ることができる。	本児の様子を知ることができる。
放 課 後 等 デ ィ サ ー ビ ス	教育機関での取り組み、保護者の思いなどが共有できたこと 学校でな様子や学校の対応がわかり、支援の手がかりとなった 子どもの情報を直接共有でき、登校に繋げる支援が具体的に取れる 支援の統一性が図れ、児童の安定に繋がれたことです ADHD対応を学校に具体的に伝えることができた 園や学校での様子が分かり、学校で取り入れていることなどを事業所でも行うことができた 子どもの捉え方、関わり方が変わり先生も子どももお互いに安心できるようになった 学校での様子がよくわかること、市の機関と繋がりがやすい、自分一人で抱えなくてもいいという安心感 保護者支援を含めて、関係機関全てで話し合いがもてた 事業所や学校での様子と差があるため、支援方法の参考になる 困っていることへの対応もそうですが、この事業所では、見せない、得意なことや、できることを情報をいただいたとき 学校で取り組んでいることと合わせて事業所でも取り組むことができた 学校、家庭の様子がより良くなった。支援の内容と方向性がより明確になった。 いつも見られない姿がみれたので、支援方向も考え直せられた 連携をすることで同じ視点を持って療育できる。情報共有が速やかにできる 情報共有によって統一した方向性での関わりができるようになった。 子どもの様子に変化(元気になった。学習意欲が出てきた。チックがおさまった等。)がおきた 色々な面が分かりどう支援したらいいか検討できる 情報共有ができた 情報の共有 見つけにくかった課題点が見えてきた 指導方法を統一することができた 情報の共有	
	校の様子を放デイで連携できる	校の様子を放デイで連携できる
	対応の仕方を共有できる	対応の仕方を共有できる
	関係性が作れてわからないことが聞く事ができる	関係性が作れてわからないことが聞く事ができる
	子供さんの情報が欲しい	子供さんの情報が欲しい
	統一した支援ができた	統一した支援ができた
	学校の様子を知ることができた	学校の様子を知ることができた
相 談 支 援 専 門 員	学校と生活がリンクし、学校や放課後デイでの支援の方向性の一致や児の障害像の共有が、できること 学校で使っている教材を見せてもらい、放デイでも取り組んでもらった 園も子供の扱いや、特性に応じた対応をしてくださり、保護者が安心して、園に通わせる それぞれの事業所や機関の支援や指導の参考になる 保育園や学校での本人の様子を具体的に共有でき、関係機関のなかで支援や関わり方の統一を図れたこと 方向性が定まり学校に安心して通学することができるようになった・進路の方向性がみえてきた 改めて対面でそれぞれの想いを共有することで、別々の方向を向きはじめていた原因が分かり修正することができたこと。思い違いしていたこともわかった 学校で支援を聞けたり、教育の観点からアドバイスがもらえる 学校や保育園からも質問や相談をしてくれるようになった。また、気にかけてくれるようになった。 日頃の様子や考えがわかった さまざまな立場のご本人の様子が共有できる 事業所や機関どうしの連絡がてきやすくなる 教育機関の見学、情報交換 日常的な様子が細かく分かる。行動特性のアセスメントなど	
	当該生徒の様子を聞くことができて良かった	当該生徒の様子を聞くことができて良かった
	色々な事を共有できたこと	色々な事を共有できたこと
	支援に活かすことができた	支援に活かすことができた
	家族への支援	家族への支援
	同じ目的を持って支援できる	同じ目的を持って支援できる

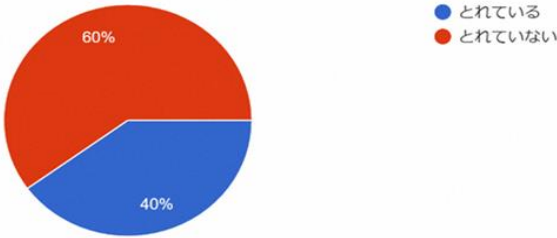
所属	設問⑤-1 障害児を支援する機関と実際に連携してよかったことを記入してください
キーワード	①共通理解 ②情報共有 ③方向性の一致 ④役割分担
小学部	事業所との情報共有ができ、環境設定や本人への働き掛けの方向性が揃う。 各機関がつながることで、保護者が安心される。 卒業後の進路の方向性のアドバイスをいただいた。 契約に繋がったケースもある。また、相談支援専門員から保護者へ働きかけて、サービス利用(居宅介護、ショートステイ)に繋がったケースもある。 共通理解のもと支援できる
高等部	学校の役割、福祉事業所の役割を明確にし、より適切な支援を行うことができた 学校での支援について改善策が見つかったこと 本人の気持ちが安定し、問題行動が減ってきた。家族内の揉め事が軽減された。 有効な支援の方法が見つかったこと 顔を合わせて情報共有したことがきっかけで、その後の連携がよりスムーズにできるようになった(予防的な対応も含めて) 自分にはない情報が得られたり、他機関へスムーズにつないでくれたりする。 支援の方向性や関係機関の役割分担を確認できたこと、多角的、多面的に支援を考えることができたこと 福祉サービスの情報を提供してもらえた。保護者が手続きをする際の支援をしてもらえた。 家庭の状況が改善されることで、本人の問題行動が減ってきたこと。また、お互いに気軽に相談できるという安心感が得られた。 通学のしやすい環境が整った。 卒業後困った時に相談にのってもらえる 同じ方向性を向いて支援方法を考えることができた。

所属	設問⑤-2 教育機関等と実際に連携して困ったことを記入してください	
キーワード	①連絡調整の難しさ ②役割の理解の不十分さ	
タセ ン 達 児 支 援 発	業務中なので実際にお話を聞きに行った時も時間がとれず立ち話で数分しか話が出来ないこともありました。	
児 童 発 達 支 援 事 業 所	保護者と母園の進路担当者との意見が合わずお互いに感情的になっていたケース。	
	保育中であるので連絡をする時間帯に悩んだことがある	
	先生や学校の理解度により、連携が困難な学校も多々ある	
	コロナの影響で行事が押ししており断られることがあった	
	学校側に対象となる児童の連携をした際、保護者側からの要請でないと受け入れてもらえず、保護者の協力のもと学校側にも配慮(他の児童との接触を避けるために授業開始後に廊下から参観し授業終了前に参観を終了、教員の負担を配慮して対面での会議ではなく電話で5～10分程度の情報共有や報告)をしたが、一方的な指導と捉えられ、教育委員会からの要請でないことを理由に学校側から支援を打ち切られたこと	
	児童発達支援センターや病院・医院・クリニック併設の事業所ではカンファレンスまでスムーズに時間をとっている園や学校が多い中、民間の事業所では連携が困難な状況が多く、特にコロナ禍で緊急事態宣言などの影響もあり、具体的な支援につながるまでの期間が長く、その間に対象児童の問題行動や行きしぶりが増えてしまうこと	
	訪問しても、学校の中で連携が取れておらず、注意を受けたこと	
	保護者・学校・福祉施設との3者間での連携会議では、連携を推奨していたが、実際の支援になると訪問だけでカンファレンスなど情報共有の時間をとってもらえない事	
	お子さんの特性の理解が不十分なこと、協力的でない園の考え方が、あったこと	
	そもそも我々のような事業所に対して不信感しかない園に関しては、協力が得られにくいかったり情報共有が難しかったりした	
放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス	園側の療育に対する理解が薄い。訪問を快く思っていない	
	部外者に立ち入られることを好まない教育機関との連携が難しいこと	
	本人の姿がそれぞれの場面で異なり支援の統一までに時間がかかることがあった	
	連絡する際に、全て母親経由でないと難しい時	初回の訪問時のアポイントの取り方
	なかなか担任の先生と連絡が繋がりにくい	
	放課後等デイサービスを理解してくれていない。会議の希望時間帯がなかなか合わない	
	教育の分野に口を出し過ぎた形になってしまい、先生から反感を買ってしまった	
	保護者様が、参加されると、営業面があるので話しにくい	
	話し合った内容が単発で終わることがあった。担任が変わるので仕方ないとは思いますが	
	ちょっとしたことがグレームになりやすい。提案を受け入れてくれない	
相 談 支 援 専 門 員	学校に訪問させていただいた時、教頭先生に、何しに来たんですか？と言われたこと。(事前に担任、保護者と話をした訪問の許可はいただいていたのですが)	
	個人情報、お話しの内容を他者に伝えられているとき	
	学校側は放課後が連携しやすいが、放デイは一番放課後が忙しく、電話や会議で時間が取りにくい	
	通常学校、保育園は連携に対しまだまだ腰が重いと感じる	
	ケース会議の依頼をしても、受け止めが悪い。窓口が、コーディネーターなのか担任なのか、教頭なのか曖昧	
	学校に事前に、してほしくないことを伝えていたが、学校が推し進めてしまい、本人の負担感が増し、不登校になってしまった	
	理解のある先生方ばかりではなく、問題行動だけをピックアップされ子供の居場所がなくなりかけた	
	訪問、担当者会議、電話での様子伺いなど	
	家族が希望しても受け入れてくれない学校があります	
	本人が学校や保育園で困っていても、気付かなかったり、接し方がわからないため、困ったままになってしまう	
	なかなか気を使ってしまい、連絡がしにくい	
	会議をしようにも時間が合わない(学校は日中が忙しく、デイは放課後が忙しい)	
	支援間だけで情報共有したいのに家族がいないとできないと言われ、支援のすりあわせができなかった	
	こちらの職種を知らなかったり間違えた理解をしている先生が多い。	
	会議等に参加してもらえない または 学校の面談などに参加できない	
	学校の先生は日中は電話が繋がりにくかったり、会議を開きにくいいため、会議の予定が立ちにくいこと。担任の先生によって連携をとることへの意欲に差があること	
	学校側が相談支援や本人の関わる機関が学校に訪問したり会議をすることに対しての拒否があった	
	まだ困ったことはありません	園や学校の先生と話がかみ合わなかったこと
	連携の仕方の正解がわからない	相談できる時間帯が限られている

所属	設問⑤-2 障害児を支援する機関と実際に連携して困ったことを記入してください
キーワード	①方向性の違い ②個人情報 ③連絡調整の難しさ
小学部	支援の軸がはっきりしていないときに、共有する内容を具体的に挙げられないことがある。
	方針がまとまらないまま、情報が保護者へ伝わったことが一度あった。
	児童生徒の住む地域のサービスが少なく利用が難しいこと
中学部	個人情報のやりとりにもなるため、各所との手続きや配慮が欠かせず、迅速さに欠ける。
	個人情報保護の意識の程度の差を感じる
高等部	前任校で、進路に関して学校の方針と相談支援員さんの提示する方向性が違っていたこと。
	正直な気持ちが言えないときもあった。
	なかなか連絡が付かない
	18歳になり、見守りを終了するという連絡だけで、その後の相談先等の説明がない。
	関係性ができるとスムーズだが、それまでは何度か顔合わせ、時間が必要ですね！

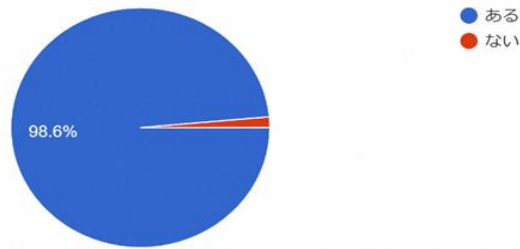
所属	設問⑤-3 教育機関等と連携して困った際の改善策があれば記入してください。	
キーワード	①相互理解	
児童発達支援事業所	予め、窓口の先生とお話しできる時間帯は確認した	諦めている(人事異動等環境が変わるのを待つ)
	時期を少し変えて再度連絡をする	相談員にも紹介してもらった
	子どもの支援の充実を目的とし、保護者からの要望であることとお互いのメリットを丁寧に伝える	
	教育機関も教員の業務負担軽減を推奨されている中、外部との連携は負担に感じられることもあるため、現場の先生方の負担にならないようにするためのシステムが必要だと思います	
	家庭と教育機関と福祉機関との連携は推進されているものの、教育機関に連携を図る場合、制度や仕組みから説明しなければ連携できないところが多いため、関係機関がある程度、制度や仕組みを周知徹底を図る必要は常にあると思います	
	相談支援がついていたり、直接話ができてと連携もスムーズになると思う	
	直接、療育の場面を見ていただき必要性を感じてもらう	
	教育機関に対して意見しようとしているのではなく、教育機関で本人が主体的にいきいきと活動するために情報共有し、教育機関と共に支援策を考えたり、支援したりしようとしてのことであると根気強く伝えていきたい	
	支援の目が届かない(一人担任)場面に対して、気づきを具体的に話した	
イ放課後等支援施設	Zoomの活用	子供さんの学校での学習、生活面がしりたい
	会議の前に、打ち合わせをきちんとする	障害分野や連携を知ってもらう講義、勉強会を開く
	パンフレットなどを持参して、役割や取り組みを知ってもらった	
	教育機関側のことをよく知ること。相手の立場、考えをよく理解する 事前に連絡をして連携の主旨を説明してから訪問する	
相談支援専門員	連携していく中でお互いの連携のとり方を探る	定期的なケア会議の開催。主治医に助言をもらう
	保護者があきらめた(改善策ではないが、仕方がなかった)	
	福祉サービスを教職員に知ってもらい、研修など顔を合わせる機会を持つ	
	担任では、話が噛み合わないため、教頭先生と話をし話をスムーズに運んだ	
	学校や保育園がどこまで出来るのかはっきりさせる。その中でして欲しいことを伝え、子どもへの接し方を細かく伝える	
	zoom等オンラインでの会議参加はできないだろうか？	
	会議や情報共有が当たり前になるシステムになってほしい	
	福祉の関係機関と連携をとることの重要性を多くの先生に認識してもらう機会を作っていく。	
	発達障害者支援センターに相談をし学校側との間に入ってもらった	
設問⑥-1 ライフステージごとのタイミングで教育機関等と連携が取れていますか？		
設問⑥-1 ライフステージごとのタイミングで教...： 幼保⇒小学部、小学部⇒中学部、中学部⇒高等部 69 件の回答		
 ● とれている ● とれていない		
所属	設問⑥-2 連携が取れていると答えた方に伺います。それはどのような方法ですか？	
児童発達支援センター	就学先の先生に申し送りをしている。	
児童発達支援事業所	事前にアセスメントシートや支援計画、モニタリング報告などをまとめたレポートを担当の学校のコーディネーターへ渡している	
	現在、まだ行えていませんが、継続しての保育所等訪問支援利用で連携を取っていく予定がある	
	書面にて事業所利用児の状態と特性、支援の方略をつたえる	
	要望がある場合、ご家族や園の協力がある場合のみ連携あり	
	事業所でも様子のまとめをお渡しする	会議や申し送り
イ放課後等支援施設	移行支援会議への参加	支援者会議を行っている
	こちら側から学校側にアプローチしました	学校訪問しています
	就学前情報提供シートのお渡し	保育所等訪問支援の活用
相談支援事業所	要望があれば事前に学校担当者との会議を実施	場所がかわるごとに、引き継ぎを行って連携している
	卒園や、卒業前に進学について事業所と保護者と話し合いの機会を設けた	
	学校に直接行って様子を見せてもらったり、個別指導計画を見せてもらったりする	
	ドクターを含め各事業所がケース会を開くこと	入学式前にケア会議を開催した
	相談支援員を介して	中学校にあがるため、情報共有としての会議開催

所属	設問⑤-3 障害児を支援する機関と連携して困った際の改善策があれば記入してください。
キーワード	①情報共有
小学部	専門の相談機関の助言を受ける 特になし 連携機関同士で情報をきちんと共有する機会を持つ。
中学部	何か起こってから連携するのではなく、日頃から連携を意識した関係づくりをしておく。 提供する情報を吟味、厳選する
高等部	伝言 折り返してもらう 特になし 本人保護者にとってよい方向を提示していくという方向性は同じなので、お互いにじっくり話をすれば解決に向かうはず。

設問⑥-1 ライフステージごとのタイミングで、障害児を支援する機関と連携が取れていますか？							
設問⑥-1 ライフステージごとのタイミングで、...：幼保⇒小学部、小学部⇒中学部、中学部⇒高等部 15 件の回答  <table border="1"> <caption>設問⑥-1の結果</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とれている</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>とれていない</td> <td>60%</td> </tr> </tbody> </table>		回答	割合	とれている	40%	とれていない	60%
回答	割合						
とれている	40%						
とれていない	60%						
所属	設問⑥-2 連携が取れていると答えた方に伺います。それはどのような方法ですか？						
高等部	必要があれば前の学校を訪問するなどしてケース会を行い、情報共有に努めている。 校内支援の一環として、小1、小4、中1、高1の年には連携の会をもつということになっている(「つなぐ会」いう名称で実施) ケース会議 移行支援会議等 情報共有できている 毎日の送迎時やケース会等で指導・支援の方向性を確認する。						

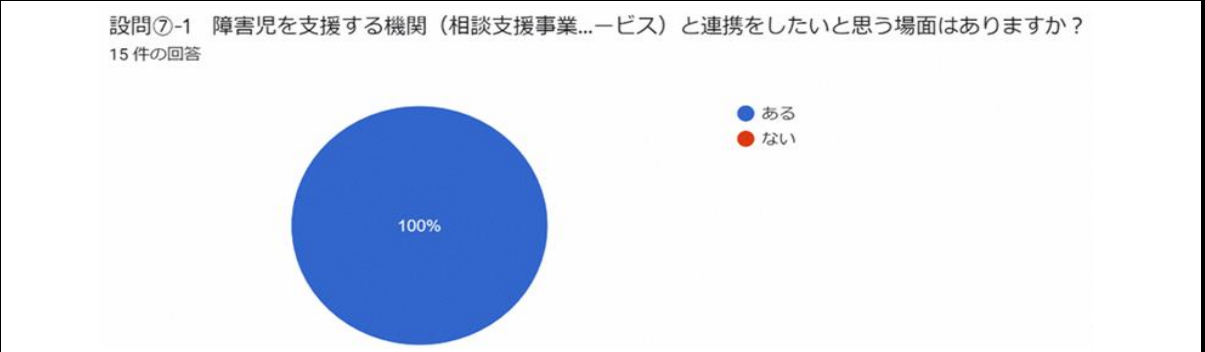
設問⑦-1 教育機関等(こども園・保育園・幼稚園・学校等)と連携をしたいと思う場面はありますか？

設問⑦-1 教育機関等(こども園・保育園・幼稚園・学校等)と連携をしたいと思う場面はありますか？
69件の回答



所属	設問⑦-2 教育機関等(こども園・保育園・幼稚園・学校等)と連携を取りたいと思うときはどんな時ですか？	
キーワード	①全体像を把握したい時 ②方向性を統一したい時 ③家庭に支援が必要な時	
児童発達支援センター	同じ対応をしたい際や情報を共有したい際。	
児童発達支援事業所	保護者からお子さんの困り感の相談があったとき	保護者の方の理解では十分に伝達が難しい時
	教育機関等での様子を実際に確認したい	就学先を決める際にアドバイスを求められたとき
	教育機関での子供の様子を知りたい	支援の統一
	支援について共有したいとき	本児の集団での様子
	1人1人に対してどんな支援をしているか、どんな支援が良かったか？を共有したい	
	保護者が母園の先生に相談出来ない。話しにくいとの訴えがあったとき	
	保護者さまからの話しだけでは、実際の把握が難しい	
	学校での友達との関わりや、授業等の様子を具体的に知りたい	
	保護者様から話を聞いたり、園の様子や支援方法が気になった時	
	支援計画作成の際や、教育機関での様子が知りたいと思った時	
	利用時の支援で行き詰った時や事業所でできたことを般化させたい時など	
	園での様子(集団生活での)本人の様子を知りたい時。保護者から聞いた話だけではわかりにくい時	
	個々のお子様のいろんな状況の様子や先生方の対応を洞察したい時です	
	対象児童が学校や園で困り、保護者が園や学校との連携に疲弊しているとき	
	事業所での様子、母親からの話等にひらきがある時	
	子どもさんに関わっている人の考え方、配慮、接し方の違いで、社会的なルールが、わかりにくく、混乱していると感じる時	
	事業所だけの様子では子どもの全体像が把握出来ない為	
放課後等デイサービス	本児にとって難しい内容を求めている、視覚的な支援があればできる事があることを知ってもらいたい時	
	教育機関での様子を、保護者からだけでなく、担当する先生からも聞けたらと思うとき	
	保護者支援や直接支援で支援方法に困惑したとき	アセスメント
	学校での様子が知りたい。	どのような療育をしているのか知りたい
	学校での様子が知りたいとき	学校での教育・療育内容の確認をしたい時
	自分の事業所で解決しないことがある時	学校での様子を知りたい時
	他での様子。支援の統一を図りたいとき	学校からそのまま来館した時の本児の様子が知りたいとき
	学校が、どう判断してどういう方針を考えているか直接知りたい時がある。方針を合わせたい時。	
	虐待の疑いがある時や、保護者様と連絡が取れないとき。	
	支援方法が分からない、家族の内情が隠されてわかりづらい時	
	保護者の要望があったとき学校の配慮、理解不足があるとき先生が明らかに困っているとき	
	学校等でどんな所に困っているのかわからない時や、学校からの課題がハードだった時	
	困り感は、他ではないのかな？、ひとつの事業所だけでは、解決しないと思えたとき	
相談支援専門員	子どもに良くない変化が表れたとき。保護者が困っておられるとき	
	学校でのトラブルが解決しないまま、情緒が不安定な状態でご利用になられている時	
	学校の様子を聞きたい。	学校での取り組みを知りたい
	母の思いと学校の方針がずれている時	ケースによる
	児の支援と合わせて親にも支援が必要な場合	児童の特性を共有し、療育に取り入れたい
	問題が発生した時、定期的な連携	
	これまでの取り組みや工夫を知りたい	先生の対応が子どもに合っていないとき
	有事というより定例的に取れることが望ましい	学校での様子を知りたい時
	対象児童の学校生活と日常生活の連携や、放課後等デイでの取り組みのリンクのため	
	事業所や学校で困り感がみられるとき。関係者が多く、方向性の統一が求められるとき	
	教育機関での過ごし方や、対応の仕方がバラバラでなとき	
	家族に支援が必要な場合不登校の場合家族と教育機関の関係がうまくいってない場合	
	家族から聞く話と先生から聞く話が正反対の時や、支援について悩みがある時	
	本人の様子や先生方の関わり方を福祉の機関と共有する必要性を感じるとき。本人が不登校気味だったり、学校側の力も必要だと感じるとき	

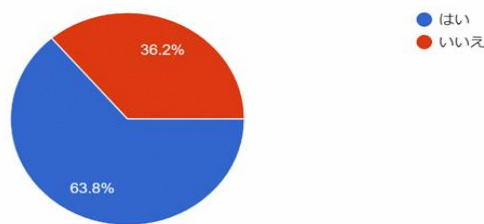
設問⑦-1 教育機関等(こども園・保育園・幼稚園・学校等)と連携をしたいと思う場面はありますか？



所属	設問⑦-2 障害児を支援する機関と連携を取りたいと思うときはどんな時ですか？（自由記述）
キーワード	①行動特性、障害特性に困り感がある ②家庭に支援が必要
小学部	支援がうまくいっていないと保護者からの話があったとき、本人が混乱しているとき 卒業後の進路や支援をしてくれるところの相談と引き継ぎ 家庭への支援が必要なとき。放課後等デイサービスでの過ごし方の情報共有、支援方針のすり合わせ。 保護者の負担を軽減することで、児童生徒の生活が改善されたり、学習の機会が保障できたりするのに…と感じるとき。
中学部	設問④-2と同様 保護者対応で共通理解したいとき
高等部	本人の実態把握が難しい時、本人支援がうまくいかない時、保護者支援がうまくいかない時 支援の方法について考えるとき 問題が起きた時など 情報共有を行いたいとき 子供に困り感がある、保護者のニーズがある 保護者や学校での指導・支援に行き詰った時 支援に困った時 家庭への支援が必要なとき。放課後等デイサービスでの過ごし方の情報共有、支援方針のすり合わせ。 学校だけでは解決できず、関係機関のお力を借りたいと思ったとき。 卒業後、学校から離れるとき 本校の児童・生徒の学校での問題行動がなかなか改善しないときや、保護者の養育について困っているとき。 子どもから「家族に叩かれた」、「ご飯を食べさせてもらっていない」などの訴えがあったとき

設問⑧-1 保護者に対し、学校が作成する「個別的教育支援計画」や相談支援事業所が作成する「障害児支援利用計画」、児童発達支援センターや児童発達支援事業所、放課後等デイサービスが作成する「個別支援計画」などを活用する提案を行っていますか？

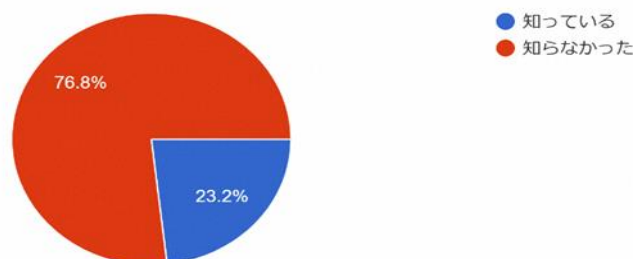
設問⑧-1 保護者に対し、学校が作成する「個別...支援計画」などを活用する提案を行っていますか？
69 件の回答



所属	設問⑧-2 各種計画について活用し、うまくいった例（好事例）を教えてください	
キーワード	①課題や目標の共有 ②支援の統一 ③困り感の解消	
児童発達支援センター	家庭においての関わり方や、サポートの仕方がわかった	
児童発達支援事業所	目標や課題の共有化	学校の支援目標が分かる
	直接話ではできない時でもこちらの計画が共有できた時	同じ方向(目標)で支援ができる
	具体的な取り組みや関わりについては、ご家庭でできることは継続してお願いし、統一した支援方法で関わっていった情報共有により、家庭、学校、事業所と同じ課題に対して同じ支援が出来たり、方向性が修正出来る	
	自事業所でできたことをフィードバックし、園や家庭でできるアドバイスをを行った	
	日常的にお子様の良い所を称賛することを計画に盛り込み、実行してもらえた事で、お子様の自己肯定感を高め、親子の活動が増大した	
	遊びからの切り替えについて、事前の予告、タイムタイマー使用、次の行動への期待ある声かけをすることで、少しずつ切り替えが、スムーズになったこと	
	ことばで、うまく要求できないお子さんに対し絵カードの使用と、ことばでの具体的な声の掛け方などについての提案により、家庭でも使用することで、少しずつ自発的な要求のことばが、でてきたこと	
	当事業所が発行した「個別支援計画」を、教育機関に見せたことで、いま本人は何か自ら出来、何が課題かがはっきりしたので支援に役立ったと言われた。	
放課後等デイサービス	放デイで作成した支援計画は必ず先生にお渡ししている	担当者、ケース会議をしている
	双方が計画や具体例、提案等を共有し学期の方向性確認を行う。児童は安定	
	お母様とのモニタリングを行い、それに沿った支援を行った結果、お母様より達成出来た事柄が増えてきたと良い報告を聞いた	
	家庭と連携し、タイムリーな興味関心が持てる療育内容を実践できた	
相談支援専門員	同じ課題を取り組む事により習得出来るのがスムーズだった	
	園と、保護者が支援する内容が一致でき、スムーズに小学校に移行できた	
	お互いの機関での取り組みや目標を共有して、自分の支援にいかす	
	支援の統一ができた	

設問⑨-1 トライアングルプロジェクトを知っていますか？

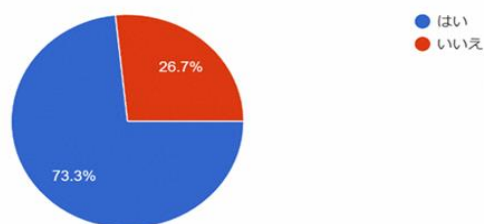
設問⑨-1 トライアングルプロジェクトを知っていますか？リンク...u/tokubetu/material/1404500.htm
69 件の回答



所属	設問⑨-2 トライアングルプロジェクトを活用し、うまくいった例（好事例）を教えてください	
児童発達支援事業所	声かけ1つとっても、家庭、学校、事業所によって良いと言われたり、駄目と言われたりとバラバラで全く対象児童にとって混乱する場面が無い、特に家庭が一番過ごす時間が長いので、正しい方向性を確認しながら進められるので、短期間での改善が見られる	
	トライアングルプロジェクトといく名目があると、家庭と園、事業所、併用先との連携を取りやすくなる	
	学校、他事業所、母親と共通認識のもと利用児に関わることができたこと	
	保護者からの意向を受け、保護者の困り感を聞いて、保育所等訪問支援を行い、教育機関での活動にスムーズに入れるようになった。また、事業所での支援項目に、教育機関で力を発揮するために身に付けるべき事柄や、身に付けるために必要な支援を入れる事ができた	
放課後等デイサービス	保護者、相談支援員、放課後等デイサービス事業者、中学校担任との連携により、自閉症候群の中一男子の学力の向上がみられた 双方が計画や具体例、提案等を共有し学期の方向性確認を行う。児童は安定	

設問⑧-1 保護者に対し、学校が作成する「個別的教育支援計画」や障害児相談支援事業所が作成する「障害児支援利用計画」、放課後等デイサービスが作成する「個別支援計画」などを活用する提案を行っていますか？

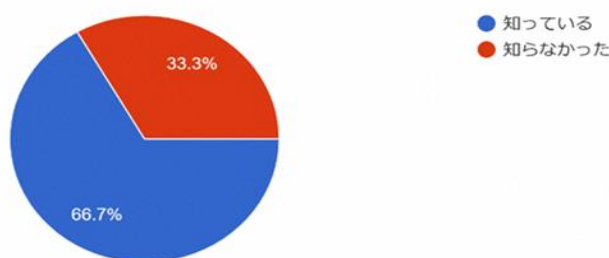
設問⑧-1 保護者に対し、学校が作成する「個別...支援計画」などを活用する提案を行っていますか？
15 件の回答



所属	設問⑧-2 各種計画について活用し、うまくいった例（好事例）を教えてください
キーワード	①共通理解 ②情報共有 ③方向性 ④役割分担
小学部	家庭と学校とが同じ方向をむいて支援できた。（今、学校で頑張らせようと指導していることを、家庭でも協力してくれた。） それぞれの計画を交換して、共有し始めたところなので、うまくいったとまでは言えない。
中学部	ケース会の資料として。学校での合理的配慮を知ってもらう資料としてそのまま活用
高等部	高等部卒業時の移行支援会議で、それぞれの支援者が本人・保護者の願いにそいながら、それぞれの役割分担を確認することができた。
	役割分担が明確になり、指導しやすくなった。
	特になし
	前任校の事例では、相談支援事業所から定期的に「障害児支援利用計画」をもらい、担任団で確認しながら連携をしていた。

設問⑨-1 トライアングルプロジェクトを知っていますか？

設問⑨-1 トライアングルプロジェクトを知っていますか？ [リンク...u/tokubetu/material/1404500.htm](http://link...u/tokubetu/material/1404500.htm)
15 件の回答



所属	設問⑨-2 トライアングルプロジェクトを活用し、うまくいった例（好事例）を教えてください
小学部	まだ、不明
高等部	保護者、福祉（相談支援事業所、放課後等デイケア）学校が一同に集まり、児童・生徒のことにについて話し合うことにより、お互いが同じ方向で接することができている。
	家庭環境に問題があり、本人も問題行動が増えていたケースが、福祉、家庭、学校が手を取り合ってケース会を行い、改善に努力することで、良い方向に向かっている。